

アブラムシ類

本県の果樹に寄生する主なアブラムシ類はユキヤナギアブラムシ（リンゴ、ナシ等）、ワタアブラムシ（リンゴ、ナシ等）、モモアカアブラムシ（モモ等）等である。

ユキヤナギアブラムシ（写真1，2）

発生生態

無翅胎生雌虫は全体が黄緑色～緑色で光沢がない。触覚、角状管、尾片は黒色である。

新梢先端の若い葉に密集して加害するが、葉を巻葉させることはない。新梢生育が阻害されたり、密度が高くなると排泄物で葉や果実を汚染することもある。

越冬はユキヤナギやコデマリで卵態で行われ、3月中～下旬にふ化し、リンゴやナシには5月頃から寄生がみられ、6～7月に発生ピークを迎える。

防除のポイント

- ・高密度にならない限り実害がない。夏季には新梢の伸長停止、天敵（クサカゲロウ、テントウムシ類、ヒラタアブ類など）の増加により密度が低下する。ハマキムシ類やシンクイムシ類などを対象とした防除で、十分に同時防除が可能である。

ワタアブラムシ（写真3）

発生生態

無翅胎生雌虫の体色は黄～黄緑～緑～青緑色～黒色とさまざまで、大きさの変異も大きい。角状管は黒色で、尾片は淡黄色または褐色である。

寄生を受けた場合は、ユキヤナギアブラムシ同様、巻葉することはないが、新梢の伸長を阻害したり、排泄物により葉や果実が汚染される。

越冬はムクゲ、クロウメモドキなどでは卵態、イヌノフグリ類、ジャガイモ、イチゴなどでは幼虫、成虫態で行われる。ナシでは5～6月、リンゴでは6～7月にかけての発生が多い。

防除のポイント

- ・発生初期に防除する。発生後期になると新梢の硬化、天敵類によって減少するため防除の必要性は低くなる。

モモアカアブラムシ（写真4）

発生生態

無翅胎生雌虫の体色は白～黄～黄緑～緑、桃～赤褐色で混色や濃淡があり、光沢がある。角状管と尾片は体と同じ色である。

新梢先端の若い葉に群生して寄生し、葉を著しく萎縮させ、新梢の伸長を阻害する。

モモ、スモモ、ウメなどの核果類の芽付近に産卵し、受精卵で越冬する。モモでの発生は、6月中～7月上旬にピークとなる。

防除のポイント

- ・葉を巻くので薬液がかかりにくいので、密度が高くなるうちに、薬液を十分に丁寧に散布する。



写真1 ユキヤナギアブラムシ



写真2 ユキヤナギアブラムシ



写真3 ワタアブラムシの寄生の様子



写真4 モモアカアブラムシ

参考文献

- ・ひと目でわかる果樹の病害虫－第二巻－、－第三巻－／社団法人 日本植物防疫協会

写真提供

- ・福島県農業総合センター果樹研究所